

現在、18カ国の学習者と交流しています。

市岡国際教育協会・日本語教室は、大阪府立市岡定時制高校の閉鎖を受けて、働きながら学ぶ「定時制の灯」を消したくないと定時制高校の同窓会が中心となり1996年5月にスタートしました。市岡国際教育協会は、田龍会(市岡高校定時制同窓会)に母校の廃校後も、引き続き支援して頂いております。

Ichioka 会報

2005/7
第29号

発行人/市岡国際教育協会理事長 河原寛治 /編集/広報係
大阪市港区市岡元町2-12-12 TEL/FAX: 06-6582-0348

特定非営利活動法人
市岡国際教育協会 日本語教室

- 場所 大阪府立市岡高校内
- 日時 金曜日午後7時から約2時間
- ボランティア参加費
 - 入会金 1,000円
 - 年会費 1,000円
- 学習者は無料

ボランティア研修会に 参加して

6班 巽 一雅

ボランティアと称する活動に一度は参加したいと思っていました。そのせいか新聞の『日本語ボランティア研修会』の見出しは、まっすぐに私の目に入ってきました。しかし「外国人にマンツーマンで日本語を教える技術を習得——」の文面は、高度な知識が必要なのではとのイメージを抱かせ、更には『研修終了者は4月から——の指導に当たる』と云った責任感漂う言葉も、役割の重大さを感じさせるに十分なものがありませんでした。

初日の2月18日(金)。1階での受付や手続きなどのお世話はずべて関係者によって行なわれ、自分がすでにボランティアの世界に身を置きつつあることを実感しました。1回目の研修会の内容は『日本語の簡単な文法の研究』です。配布資料に基づいて「日本語教師の心得」や参考書の紹介、文法の活用事例などの説明。最初は学生気分浸って聞いていましたが、本格的な文法活用を聞くや、日本語の一言一句の難しさを知ると同時に、テーマにある「——簡単な——」の文字が恨めしく見え、たことを憶えています。

2回目の2月25日(金)に行われた研修会は、『日本語指導方法等についてのパネルディスカッション』という内容です。教え方や学習者の意識などの説明、各グループでの自己紹介、問題提起に続いて討論。外国人による経験談が披露され、最後に集約結果が紹介されました。『教える』ではなく『支援する』の考え方が印象に残っております。

最終回となる3月4日(金)は、『日本語発声法のトレーニング』や『尊敬語、謙譲語の研究』などのプ

ログラムです。敬語(尊敬語・謙譲語・丁寧語)の使い方やマニユアル言葉に加え、専門の先生による発音・発声練習では言葉の明確さや滑らかさなどが具体的に紹介され、日々の自分の話し方まで考えさせられる内容でありました。日本語を通じて、「国と国、人と人とのつながりを深めていきたい」との思いを抱いた研修会でした。

「ワクワクのバーベキュー大会！」

4月29日(祝) 3班メンバーを中心に道明寺の河川敷公園にて初めてのバーベキュー大会が開催されました。

当初の参加人数予定は10人ほどでしたが、人が人を呼び、何人かの家族もかけつけて、日本人11人、外国人8人、赤ちゃん1人、犬3匹の総勢20名(+3匹)と国籍も年齢も性別も生後もバラバラなが面々が集まりました。

用意は殆ど地元のY夫婦と助っ人M夫婦にお願いしたため、残りのメンバーは近鉄阿部野橋駅に11時に集合し遠足気分電車に乗り込み、他のお客を圧倒しながらワイワイガヤガヤと行きました。

到着すると、お腹も丁度いい具合にすいてきて、早速お肉を中心に焼き始めました。

その時は、何と男性の学習者さんが率先してテキパキお肉を料理をしてくれて、中にはシェフと呼ばれるくらい活躍の人もいて、皆おいしくいただきました。

その日は天気も良かったので、お肉をひとしきり食べた後はそれぞれ、子供と遊んだり、うだうだ木陰を探しておしゃべりしたり、赤ちゃんをあやしんだり、お寺見学へ行ったり、まだまだお肉を食べ続けたりと



思い思いの時間をすごしました。同じ班でも担当が違うと普段はなかなか話す機会がないので、今回は初めてたくさんの人とたくさん話すことができて、見ているだけではわからなかった意外な一面を発見できたり、開放的な雰囲気もあって「恋の話」を披露してくれる人もいて盛り上がりました。

特に3班は熱心な阪神ファンが多いことがわかり、常勝祈願とともにゴールデンウィークの観戦の約束も交わされていきました。

いつもは、金曜日の夜2時間だけ教室で机に向かっての勉強ですが、たまにこのように屋外でこうした交流がある、担当者だけではなく、班全体もすごく仲良くなれて皆大満足でした。

学習者さんも「日本での良い思い出がひとつ増えました」と喜んでくれて、「または非開催してください」とも言われました。

これを機にまたこれからも色々屋外での交流会も企画してみたいと思います。今回は残念ながら参加できなかった人も是非次回は参加してみてください。

教務コーディネーターで 思うこと

コーディネーター 小浜良吉

コーディネーターになって一年弱になります。ボランティアと学習者に出来る限り満足してもらえようという運営をしたいと思っておりますが、現実は不十分だと思っています。

しかし、昨年嬉しかったことは、研修に関するアンケートで約8割の人が、現状の教室の雰囲気を楽しんでいると答えてくれたことです。

現状で気になるのは、ボランティアと学習者の目的意識に多少のギャップを感じます。

学習者の意識は、①大学留学を目指す、②専門学校に通い、夜は日本語の会話や日能検定1、2級合格を狙う人、③技能研修生として働きながら日本語を学びたい人、④外国語の先生やその他で日本語や文化を学びたい人など、目的意識がはっきりしています。

一方、ボランティアの意識は、自分の許せる時間で、持ち合わせた能力を人のために役立てられたら良いとする考え方で、個人の都合が優先するように思われます。

サラリーマンは、時に止むを得ない事態が起こると思っています。しかし、学習者の待ち詫びる気持ちを察して「所詮はボランティア」であると片付けられないで、何らかのメッセージを送って欲しいですね。

一年を振り返って見ますと、学習者の受け付け方法を変えて混雑緩和を図りました。また、学習者とボランティアのコミュニケーションを図るため学習ファイルの管理方法を変えました。

更に今期は初めて来校された学習者の期待に答え、不安を和らげるようにインフォメーション部を創設し、対応するようにしました。一方、ボランティアに対して、日本語教室の運営は、専従者なしで全

てボランティアに依存していること、学習者に「ただ教えたら良い」では運営出来ないことを理解して欲しいです。

昨年は、各班長に対して毎回フォローアップして欲しいことを連絡しました。その内容は、ボランティアとして教室で何をすべきかをまとめた、「ボランティア活動の役割」のフォローに過ぎなかったと思います。今後、日本語教室がより良くなるためには、各自が自分の役割を自覚してボランティア活動に積極的に参加していただきたい。

学習者数について

4月から6月上旬まで8回の教室が開催されました。学習者の平均出席数は60名あまりでした。

スマトラ沖地震・津波に対する 寄付金について

昨年末のスマトラ沖地震・津波に対して、1月の教室で募金活動を行った結果、合計67393円を寄付が集まりました。寄付金は8月にスリランカのしかるべき機関に寄付する予定です。その結果については、次号にて報告いたします。ご協力ありがとうございました。